

火頭山豆種  
その4

産春町田蓄



## 初めに

---

本書は第1部と第2部に分けてあります。

第1部では、種田山頭火の自由律俳句集『其中一人』のなかの1句「くりやまで月かげの一人で」について考えます。

第2部では、句集『行乞途上』のなかの1句「きょうもいちにち風をあるいてきた」について言及します。

種田山頭火について：

行乞しながら自由律俳句を作り続けた俳人です。

没年は昭和15年です。

CGイラストレーションについて：

山頭火の世界を複合的にイメージしながら制作しておりますので、必ずしも特定の1句をイラスト化していると云うわけではありません。また、原画CGは724×1024ピクセルのサイズで作成しています。

制作に使用した画像処理ソフトウェアは次の通りです。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

参考文献について：

次の文献を参考にしました。

山頭火句集（ちくま文庫）

2000年6月15日 第5刷発行

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り（株式会社大修館書店）

1994年4月1日 改訂版初版発行

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷（株式会社三省堂）

昭和50年9月15日 第1刷発行

Longman Dictionary of American English (Longman Inc.)

First printing 1983

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

## 第1部

---

- くりやまで月かげの一人で

これは句集『其中一人』の中の1句ですが、「くりやまで」の読み方が解りません。解読してみたいと思います。

### 《 解読1 》

「くりや」が台所を意味する「厨」であるとした場合は、「(屋外にある)厨まで月かげの(中を移動するのは)一人で(自炊する為、若しくは水を飲む為です)」と解読できます。

この場合、山頭火の住んだ其中庵もしくは宿泊した旅館に屋内の台所がなく、屋外に設置された調理場を使った時に詠んだ句になります。

もっとも夜、暗い中で火や刃物を使うのは危険なことなので、「自炊する為」というより「水を飲む為」ぐらいが妥当でしょう。

英訳すると：

- I move to the outside kitchen under the moonlight alone.

ただし、「厨」が昭和の初めに既に古語であったとすると、山頭火の使わない言葉であった可能性はあります。

### 《 解読2 》

「くりやま」が栗の木の生えている栗林を意味する「栗山」であるとした場合は、「栗山で月かげの(中で)一人で(栗を拾う、若しくは立っている)」と解読できます。

この場合、昼間に拾えば好いものを、わざわざ夜中に拾うというのも疑問があるので「栗を拾う」のではなく「ただ単に立っている、つまり、佇む」ぐらいが妥当でしょう。

しかし夜中に山へ出かける理由は解りません。たまたま通りかかった時に詠んだのでしょうか。

英訳すると：

- I stand in a chestnut orchard under the moonlight alone.

### 《 結論 》

「栗山」と読みたいと思いますが、自信はありません。

## 第2部

---

- きょうもいちにち風をあるいてきた

これは、句集『行乞途上』の1句ですが、「きょうもいちにち風を（供としながら健康維持の為の日課の散歩として）あるいてきた」と理解していました。そして、拙著『種田山頭火その3（其中一人・行乞途上より21句：イラスト・英訳）』（<http://p.booklog.jp/book/69257>）に於いて、次のように英訳しました。

- All today together with winds, I have walked and come as usual.

しかし改めて考えてみて、「きょうもいちにち風を（供として）あるいて（いつものように生活費を稼ぐ為の托鉢をしながら家々を廻って、そして自宅に戻って）きた」と解読するのが妥当であろうと思なおしました。

英訳は、次のように修正したいと思います。

- All today together with winds, I have walked for begging as usual and returned.



## 終りに

---

著者について：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。

作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

次回作について：

今回は、予定外に本書を制作してしまいました。

次回は、山頭火の句集『山行水行』および『旅から旅』より句を選び、英訳およびイラスト制作をする予定です。

（2013年 4月 茜町）

種田山頭火 その4 (探究：イラスト・英訳)

<http://p.booklog.jp/book/69407>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69407>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69407>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ